

「行動する知性。」をもって、それぞれの「現場」へ



法学部長
中島 康予
Yasuyo NAKAJIMA

卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。また、これまで皆さんを支え、このよき日とともに迎えられた全ての皆さんに、心からのお祝いの言葉をお伝えします。

1885年、若き18人の法律家が英吉利法律学校を創設してから、今年で130年。また本年は「戦後70年」という節目の年に当たります。その間、中央大学法学部は、社会の発展に寄与すべく、堅実で真面目な努力を惜しまない人間性豊かな卒業生を輩出してきました。その中には、日本の植民地支配下にあった国々からの「留学生」が含まれています。白門を巣立った先輩が紡いできた歴史に、皆さんもその名を刻み、連なることになるのです。

「グローバル化」が進展し、異なる価値や利益を追求する人びとの交流を促進したり、そこに生じる紛争や対立を未然に防止したり解決することへのニーズは、ますます高まることでしょう。また、「3.11」を契機として、これまでの社会のあり方の深部を見つめ直し、今後の社会のあり方を構想し、未来を切り拓くことの大切さはもとより、今、そこで、問題を抱えている人びとに寄り添い、その声に誠実に耳を傾け、問題解決に真摯にとりくむ人びとの存在意義に、私たちはあらためて気づかされているのではないのでしょうか。

卒業生の皆さんが、それぞれの「現場」「持ち場」で、法律学・政治学の専門的知識をいかし、他者とともに意思決定を行い、行動に移す力に磨きをかけ、活躍されることを願っています。

卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます



経済学部長
谷口 洋志
Yoji TANIGUCHI

皆さん、ご卒業おめでとうございます。

入学から卒業までの4年間はいかがでしたか。入学直前に東日本大震災が発生し、その影響を受けた方も多かったことと思います。間接的な影響を含めればほとんどすべての人が何がしかの影響を受けたのではないのでしょうか。

東日本大震災のような大きな自然災害や危機が再発しないことを祈るばかりですが、すでに世界には大きな危機が実在し、かつ沢山の潜在的な危機も存在します。それらの危機は、政治的、経済的、社会的、宗教的、軍事的などさまざまです。世界のどこかでいつ危機が発生してもおかしくない状況にあります。グローバル化は、一地域の危機が世界全体の危機につながる可能性を含意しています。

グローバル化から撤退し、孤立や鎖国を目指すことが選択肢として残されていないとすれば、私たちは潜在的危機を想定して事前・事後の対策を考えておく必要があります。たとえば、潜在的リスクへの事前対応として、リスク回避行動をとったり、リスク分散を通じて予想被害の最小化を図ったり、保険に加入する、といったことが必要です。

大学生時代は、自宅と大学とアルバイト先が生活空間の大部分を占めていたことと思います。要するに、比較的安全な空間に身を置いていたと言えます。しかし、今後は世界のどこかに向かって航海することになります。向かう先は、不確実性や危険に満ちた空間かもしれません。大学生時代に蓄えた知識と鍛えた知恵を最大限に活用して、安全かつ安心な将来対応を準備されることを願っています。